

ホクコーリゾレックス®水和剤

■種類名：トルクロホスメチル水和剤

■有効成分：トルクロホスメチル----- 50.0%

■登録番号：第16883号

■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

■登録初年：1987.10.21

■性状：淡褐色水和性粉末 45μm以下

■有効年限：4年

■包装：500g×20袋、1kg×20袋

【特長】

- リゾクトニア病害に卓効を示す土壌処理剤。
- 各種野菜の苗立枯病、根菜、葉菜類のリゾクトニア病に有効。

【適用内容】(2018年10月末日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを含む農薬の総使用回数
りんご	紫紋羽病	1000	40L/樹	収穫 60 日前まで	1 回	土壌灌注	1 回
麦類	雪腐小粒菌核病	1000~1500	60~150L /10a	根雪前	2 回以内	散布	2 回以内
てんさい	根腐病	100	ペーパーポット 1 冊当り 1L(3L/m ²)	定植前	1 回	灌注	6 回以内 (育苗土壌への混和は 1 回以内、500 倍希釈灌注は 1 回以内、100 倍希釈灌注は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	根腐病 葉腐病	500~1000	100~300L /10a	収穫 30 日前まで	3 回以内	散布	
	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	3L/m ²	育苗中期	1 回	土壌灌注	
ばれいしょ	黒あざ病	50~100	—	貯蔵前又は植付け前	—	種いも浸漬 (10 分以内)	1 回
レタス	すそ枯病 白絹病	1000	100~300L /10a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
キャベツ	株腐病	500~1000					
トマト きゅうり なす ほうれんそう	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	3L/m ²	は種時	1 回	土壌灌注	1 回
ピーマン		種子重量の 0.5% 粉衣	—			—	
	ししとう 甘長とうがらし ぎぼうし	500	3L/m ²	収穫前日まで	2 回以内	株元灌注	4 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種前の土壌混和及びは種時の土壌灌注は合計 1 回以内、株元灌注は 2 回以内)
種子重量の 0.5% 粉衣		—	—				2 回以内
アスパラガス	茎枯病	500	100~300L /10a	収穫後から茎葉刈取り期まで 但し、収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	苗立枯病			株養成期(は種又は定植時から茎葉刈取り期まで) 但し、収穫 14 日前まで			
メロン	黒点根腐病	3L/m ²	3L/m ²	定植時	1 回	株元灌注	2 回以内 (定植時は 1 回以内、生育期は 1 回以内)
こんにゃく だいず	白絹病			1000			
こんにゃく だいず	白絹病	1000	3L/m ²	収穫 30 日前まで	3 回以内	土壌灌注	3 回以内
				収穫 14 日前まで			

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを含む農薬の総使用回数
ふき	白絹病	1000	3L/m ²	収穫 21 日前まで	1 回	株元灌注	2 回以内 (定植前の土壌混和は 1 回以内、株元灌注は 1 回以内)
にら にら(花茎)				収穫前日まで	2 回以内		2 回以内
ねぎ				土寄せ時 但し、収穫 14 日前まで	3 回以内	株元散布	3 回以内
うど	茎腐病	1000	100~300L /10a	収穫 45 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内 (粉剤は 1 回以内、水和剤は 2 回以内)
はすいも (葉柄)				収穫 7 日前まで	3 回以内		3 回以内
メキャベツ	立枯症 (リゾクトニア菌)	500	3L/m ²	は種、仮植時 及び定植時	1 回	土壌灌注	1 回
みぶな	立枯病 (リゾクトニア菌)	1000		は種時			
オクラ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500	1L/m ² (150mL/穴)	は種時及び 子葉展開時 育苗期	2 回以内	植穴土壌 灌注	2 回以内
ブロッコリー			3L/m ²	収穫 21 日前まで	1 回	土壌灌注	3 回以内 (育苗期は 2 回以内、定植後は 1 回以内)
豆類 (未成熟、ただし、さやえんどう、実えんどう、未成熟そらまめを除く)			1L/m ²	は種時		土壌灌注	
さやえんどう 実えんどう	茎腐病	種子重量の 0.5% 粉衣	—	は種時	1 回	種子粉衣	3 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、は種時の土壌灌注は 1 回以内、生育期の土壌灌注は 2 回以内(但し、は種時に土壌灌注をする場合には 1 回以内))
				収穫 7 日前まで			
未成熟そらまめ	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000	1L/m ²	収穫前日まで	2 回以内	土壌灌注	2 回以内 (は種時は 1 回以内)
	茎腐病					株元灌注	
未成熟とうもろこし	紋枯病	1500	100~300L /10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
みょうが(花穂)	白絹病	2000	5L/m ²	みょうが(花穂)の収穫 14 日前まで 但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで		土壌灌注	
みょうが (茎葉)				は種時 但し、 収穫 30 日前まで	1 回	1 回	
ふだんそう	立枯病	500	3L/m ²	は種時 但し、 収穫 30 日前まで	2 回以内	株元灌注	2 回以内 (は種前の土壌混和は 1 回以内)
みつば			0.5L/m ²	収穫 90 日前まで			

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	トルクロホスメチルを含む農薬の総使用回数
みつば (水耕栽培)	立枯病	1000	100～ 300L/10a	育苗期 但し、 収穫 40 日前まで	1 回	散布	1 回
みずな	リゾクトニア病			は種時			
花き類・ 観葉植物	立枯病 株腐病 茎腐病 白絹病	500～ 1000	3L/m ²	生育期	5 回 以内	土壌灌注	5 回以内
スイトピー	腰折病			—		株元灌注	
カーネーション	根腐病 苗立枯病 (リゾクトニア菌)			生育期		土壌灌注	
アスター	苗立枯病 (リゾクトニア菌)			生育期		土壌灌注	
チューリップ	葉腐病	100	100L/10a	植付前	1 回	全面散布 土壌混和	
		200	200L/10a	植付後～萌芽前	5 回 以内	全面土壌 散布	
樹木類	くもの巣病	1000	200～700L /10a	発病初期		散布	
	白絹病		3L/m ²			株元灌注	
ハイドランジア	葉腐病	500～ 1000	100～300L /10a	生育期	5 回 以内	散布	
えぞまつ(苗木) とどまつ(苗木)	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	1000	3L/m ²	発芽後 (発病初期)		苗木兼 全面土壌散布	

【効果・葉害等の注意】

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液との混用は避けること。
- てんさいの根腐病、葉腐病に対しては、予防的に散布すること。また、根腐病に対しては株元を中心に散布すること。
- 野菜類の苗立枯病防除では、リゾクトニア菌による苗立枯病に有効であるが、他の病原菌による苗立枯病には効果が劣るので、それらによる苗立枯病の混発が予想される場合には、他の有効な薬剤と組み合わせて使用すること。
- ばれいしょに使用する場合は次のことに注意すること。
 - ◆ 浸漬処理の場合は、所定濃度の薬液に瞬時～10 分間浸漬すること。
 - ◆ 処理した種芋はよく風乾してから貯蔵又は植え付けること。
- さやえんどうの茎腐病に使用する場合、多発地では種子粉衣処理では効果が不十分な場合もあるので、土壌灌注処理と組合わせて防除すること。
- オクラの苗立枯病に対しては、植え穴または株元に灌注処理をすること。
- 水耕栽培に使用する場合、本剤を使用した施設からの廃液をかんがい水路、排水路、河川等には絶対に流さず、適切に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本薬剤を施設で使用したあと、施設内に臭気が残る場合には換気を行うこと。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意すること。 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋などを着用すること。作業後はうがいをするともに洗眼すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係ない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 本剤で処理した種いもは食料や動物飼料として用いないこと。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。